

ITデジタル・AI技術を活用した「ビジネス価値の創造」に向けて

当金庫では、中期ビジョンの実現と持続的な成長に向けて、ITデジタル・AI技術等の活用を進めています。ITデジタル・AI技術の活用はビジネス変革の前提という考えのもと、ビジネス部門とITデジタル部門の連携・協働を一層深化させるとともに、その基盤となる組織体制の整備や人材育成にも継続的に取り組んでいます。同時に、システムの安定稼働を維持することの重要性が高まるなかで、ITリスクマネジメントやサイバーセキュリティの強化にも取り組んでいます。

これらの取組みを通じて、未来を見据え、新たなビジネス価値の創造を通じた持続的な成長の実現に挑戦してまいります。

理事常務執行役員
ITデジタル統括責任者
(CI & DO)

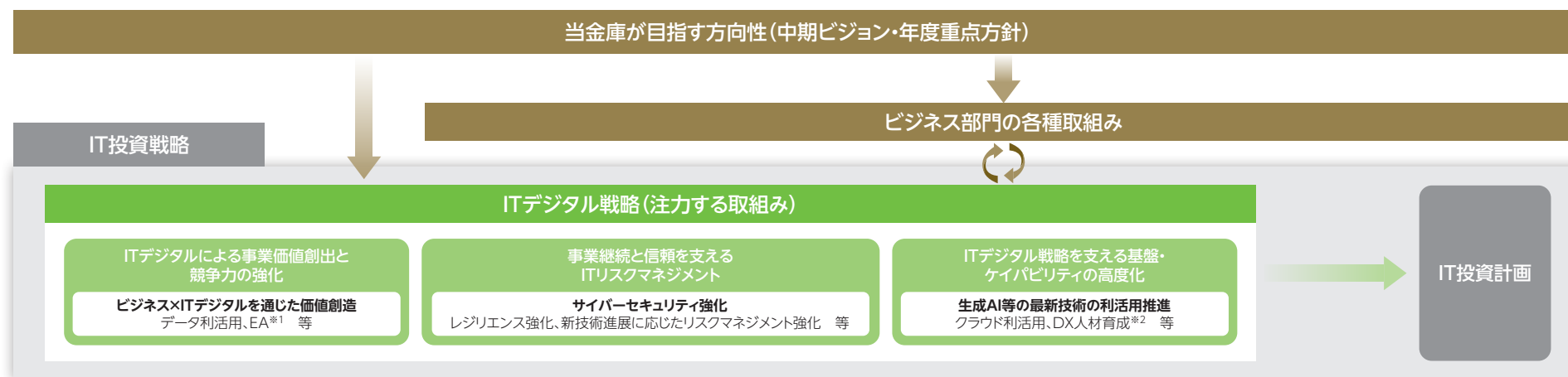
半場 雄二



農林中央金庫のITデジタル戦略

ITデジタル戦略全体像

当金庫のITデジタル戦略は、ITデジタルを中期ビジョンや毎年度の取組事項、それを踏まえたビジネス部門の各種取組みを支える基盤と位置付けたうえで、その取組みにかかる方向性を定めています。足元では、「ビジネス×ITデジタルを通じた価値創造」、「サイバーセキュリティ強化」、「生成AI等の最新技術の利活用推進」を重点テーマとして取り組むこととしています。



※1 エンタープライズアーキテクチャ：経営戦略を起点に、ビジネスとITデジタルの全体構造を踏まえ、全体最適を実現するための設計・管理の取組み ※2 DX人材については、「人的資本経営」P.62をご覧ください。

ITデジタルの取組み

ビジネス×ITデジタルの取組みの変革

ビジネス×ITデジタルの取組みとして、当金庫では、ITデジタル人材の育成および全社標準のITデジタルツールの導入・定着を継続的に推進してきました。

さらに、新たな挑戦として、生成AIをはじめとする全社横断的なツールの展開を進めており、今後は業務特性に応じて最適化されたAIエージェントの導入を推進していく方針です。

また、ITデジタルツールの導入・定着に関するノウハウを、子会社である農中情報システム(株)と連携し、外部向けに提供する取組みも開始しています。

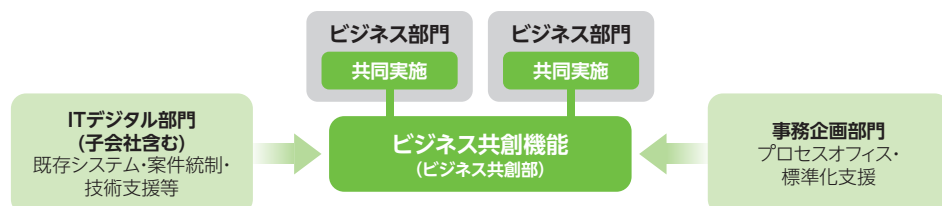
これまでの取組み

-  全社的なITデジタル人材育成に加え、トランスレーターやデータサイエンティスト等のDX人材の育成を推進
-  全社標準として導入したコミュニケーションツールやワークフローと、SaaS等の汎用業務ツールとの連携、ならびにBI・RPA等の活用による業務効率化・高度化
-  生成AIで活用するデータの集約を進め、業務に最適なAIソリューションを柔軟に活用するとともに、個別業務に最適化されたAIエージェントの導入を検討

ビジネス共創の取組み

これまでの全社標準によるITデジタルの取組みに加え、当金庫の各ビジネスに寄り添ったITデジタル活用および業務プロセスの最適化が、今後ますます重要になるとの認識のもと、2026年度に新たに「ビジネス共創部」を新設しました。当部が各ビジネス部門と一体となって、ITデジタルを通じたトップラインの向上および業務効率化によるビジネス共創・価値創出の取組みを加速していく方針です。

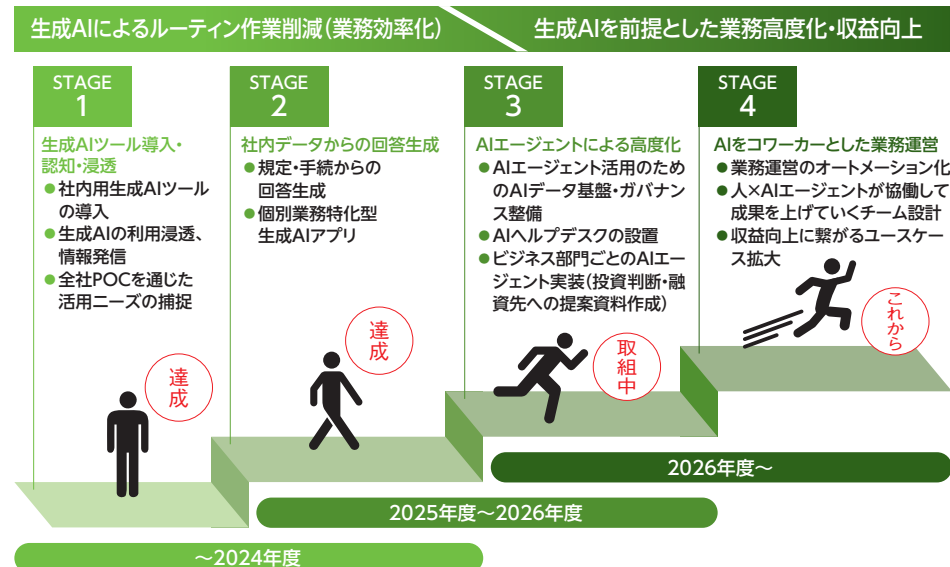
本取組みの効果測定は、ビジネス部門との共創による収益向上、効率化、堅確性向上を指標として、達成度合いを評価していく考えです。



生成AIの利活用

当金庫では、生成AIの利活用にかかる中長期ロードマップを設定しています。

足元では営業支援や投資判断、汎用ヘルプデスク等に活用する大規模なAIエージェント開発に加えて、市民開発に向けたインフラの整備やAI推進アンバサダーの設置、組織内外向けの情報発信、AI利用浸透施策等により、職員のリテラシー向上や意識改革を行い、職員自身が積極的にAIエージェントの開発・利用をする組織への変革を目指しています。



IT投資への考え方

当金庫では、ITデジタル戦略の実現に向け、毎年度、IT投資計画の見直しを行っています。投資配分は、生成AIやシステムアーキテクチャの刷新といった戦略分野に加え、サイバーセキュリティやBCP対策等、攻めと守りの両面から、重要テーマを選定し、決定しています。

また、IT投資の最適化に向けて、既存のIT資産の見直し(統廃合)にも取り組んでいます。これにより、システムの維持コストを抑えつつ、成長投資余力の最大化を目指しています。